

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077100081
法人名	社会福祉法人 清新会
事業所名	グループホーム ふる里
所在地	福岡県糸島郡二丈町大字深江2359-2-2 (電話) 092-325-2333

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年4月16日	評価確定日	平成19年6月20日

【情報提供票より】 (平成19年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	9人, 非常勤 5人, 常勤換算 11.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	12,600円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (平成19年3月15日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	69歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 福吉病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域からやや離れた山の中腹に位置する事業所で、母体の老健施設に併設されている。周囲は緑豊かな木々に囲まれ、小川のせせらぎが聞こえ、美しい自然のなかにある。事業所は2階建ての建物で、玄関周りは季節の花々で飾られ、和やかな雰囲気である。利用者主体のサービス提供を管理者や職員が一同となって心がけ、実践している。「その人らしさを大切に、出来ない事より、出来る事を信じて、今を笑って、明日を迎え、一瞬一瞬を大切に共に過ごす」という理念が日常生活やケアの中に浸透している。全利用者に対してきめ細かなケアを行い、要介護度が改善した事例もある。地域との連携についても、なじみの関係が継続できるようなボランティアの受け入れ態勢など、模索しながら取り組みを始めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題への取り組みとして、事業所独自の理念を作成、地域との交流のため情報収集・参加に積極的に取り組み、施設については利用者の行動を妨げないようにするなどの取組を行っている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  ミーティングで職員が項目を読みながら自己評価を行っている。また改善すべき課題については全職員で話し合い、改善計画を立て、日々の実践に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  運営推進会議のメンバーには民生委員児童委員や家族会の代表者も参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録も作成している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)  家族の訪問時には積極的に苦情や要望を聞き、職員全員で共有し、解決する仕組みを整えている。苦情の内容・取り組み・結果について必ず記録している。必要に応じて運営推進会議などに報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  地域から離れた山の中腹にあるため、今までは地域との交流が十分に行われていなかったが、最近は民生委員児童委員や社会福祉協議会から地域活動や行事の情報を積極的に集めて、地域の文化祭や神社が催す祭りや公民館の演奏会等に参加している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は、全職員と話し合っつけりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に理念の実践が出来るよう、理念にそったケアを行っているかを声を掛け合い確認して、日々のケアに取り組んでいる。全ての職員で考えた理念のため、職員一人ひとりが共有し、しっかりと認識している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や自治会などには加入していないが、民生委員児童委員や社会福祉協議会から地域活動や行事の情報を積極的に集めて、地域の文化祭や神社が催す祭り、公民館の演奏会などに参加している。	○	地域との交流を積極的に取り組み始めているため、今後も継続して行い、地域との交流を深めてほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで職員が項目を読みながら自己評価を行っている。評価で見出された課題について全職員で話し合い、改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、民生委員児童委員や家族会の代表者が参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録も作成している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社協に対しては、事業所の実情や取り組みを積極的に伝え、課題解決に向けた協働を行っているが、行政窓口に対しては行っていない。	○	今後は行政窓口との連携に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修には一部の職員が参加し、パンフレットや資料は常備している。しかし、内部研修の開催は行っていない。	○	全ての職員が必要に応じて家族などに説明ができるように、内部研修の開催を行い、知識の習得に努めてほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には職員が必ず声かけし、近況報告を行っている。お茶を出し、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。訪問が少ない家族や必要時には電話で報告している。1年に3～4回「にこにこ便り」を送付している。金銭管理は複数体制で行い、訪問時や郵送にて月1回報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には積極的に苦情や要望を聞き、全ての職員で共有し、解決する仕組みを整えている。苦情の内容・取り組み・結果について必ず記録している。必要に応じて運営推進会議などに報告している。家族会があり、安心して苦情や要望などを出せるように、管理者や職員は配慮している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動は最小限に抑えている。利用者と職員の馴染みの関係を保つために、ユニット同士の合同行事を取り入れるなどの取り組みを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者や管理者は、職員の募集・採用にあたっては、専門職の倫理、高齢者や認知症・介護に関する知識や経験などを重視し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。職場環境については、職員の生き生きとした姿が見られる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員が個別に学習し、資料を作成している。また、職員に対する人権教育の研修の機会を設けている。しかし全ての職員が研修や勉強会などに参加するなどの取り組みは行われていない。	○	全ての職員が共有できるよう、内部研修や勉強会を開催するなどの取り組んでほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や個人面談にて各自の習熟度などを把握している。月に1～2回、パートも含む全員参加のミーティングを行い、外部研修に参加した職員が報告書に基づき報告するなどの取り組みを行っているが、一部の報告にとどまっている。	○	外部研修の内容を全ての職員が共有できるよう、内部研修を徹底してほしい。内部研修についても、実施状況を確実に記録してほしい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の見学を行い、よりよい事業所の運営やケアの実践に努めている。また他の事業所の見学を積極的に受け入れている。		
<b>【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前は家族や関係機関に対して詳細なアセスメントを行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。職員同士も詳細に申し送りを行い、徐々に事業所になじめるよう、家族と相談しながらサービスを実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や掃除などを共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。畑・菜園作り・園芸など利用者の得意分野では力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、介護計画に反映している。本人の希望や意向の把握が困難な場合は、家族から聞き取った生活史などを参考にし、職員のペースで行わないよう待つ姿勢を大切にするなどの取り組みがある。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向・希望を尊重しながら、個別で具体的な介護計画を作成している。職員や家族の意見や気づきを、その都度介護計画に反映している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居時や状態変化時は本人と家族を交えた担当者会議を開催して、介護計画に反映している。モニタリングはチェック表を作成し、毎月実施している。変化があれば介護計画の見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診は職員が同行し、医師との連携を密に行っている。理学療法士に利用者の身体状況やリハビリに関して指導や助言をしてもらう機会を設けている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関での受診を支援している。家族による受診介助が困難な場合は、本人と家族の同意を得て、適切な医療が受けられるように協力医療機関で受診している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会からの依頼もあり、重度化や終末期の介護の受け入れはどこまで可能かを、家族・医療機関・事業所の三者で協議し、方針の共有に努めている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	諸場面での声かけや対応については、日常的に心がけてケアを実践している。介護記録等については鍵のかかるロッカーに保管している。個人情報保護に関する資料や事業所独自の個人情報保護規定を設けているが、職員向けの研修会が開催されていない。	○	全ての職員に対する勉強会や研修会の開催してほしい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切ったスケジュールなどは設けていない。散歩を楽しんだり、居室で自由に過ごしている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの役割で食事が楽しめるように、日常的に利用者と職員と一緒に調理や片付けをし、また同じ物を食べている。月2回は利用者と共にメニューを決めて食材の買出しに行くなど、利用者の意思や気持ちを大切に支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表で入浴状況を確認し、一人ひとりの希望を聞き、支援している。入浴拒否については、拒否の原因を考え、環境整備や時間の工夫、入居以前の家での暮らし方などを視野に入れ、検討している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け、刻み、ごみ捨て、朝の新聞取り、洗濯物たたみ、掃除など、一人ひとりが役割や分担の場面を支援している。趣味で小物作りを行ったり、居室やベランダで観葉植物を育てることを楽しんでいる利用者も見られる。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩だけではなく、衣料品や嗜好品の買い物、外食、喫茶店でコーヒーを楽しむなどの機会を設けている。また、農園にて様々な野菜作りを行い、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は行っていない。事業所は山の中腹に立地し、周囲に川がある環境から、玄関は施錠している。しかし、鍵をかけることの弊害について職員は理解しており、見守りが可能な時は開放している。また外出傾向のある利用者に気を配り、利用者が外出したい時は個別に対応している。	○	利用者の安全を図りながら、日常的に鍵をかけないケアや工夫をしてほしい。
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体施設（老健）と合同で、利用者と共に年2回訓練を実施し、報告書に記録している。全ての職員は、避難経路の取り決めを周知している。非常食の持ち出しチェックリストや避難場所の地図を用意している。しかし、非常食や備品の準備は、母体施設のみである。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備などは、事業所独自で準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は栄養士がカロリー計算を行っている。利用者の状態を把握し、食事量の調節などを行っている。チェック表を使用し、食事摂取量や水分量を把握している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1階のフロアには腰掛けられる高さの畳敷きのスペースがあり、食堂にはこたつやソファを設置し、家庭的雰囲気配慮している。玄関やベランダには季節の花や木々があり、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室によって、こだわりの家具や椅子が持ち込まれ、家族の写真や馴染みの小物などが飾られている。蘭やプランターの栽培などを居室やベランダで楽しむ利用者もあり、本人にとって安心でき、居心地よい居室となっている。</p>		

※  は、重点項目。